

# Asia Indicators

発表日: 2024年7月12日(金)

シンガポールの 20242Q GDP は前期比年率 +1.45% (Asia Weekly(7/8~7/12))

～前半の経済成長率は通年の成長率目標(1~3%)の上限近傍で推移する展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

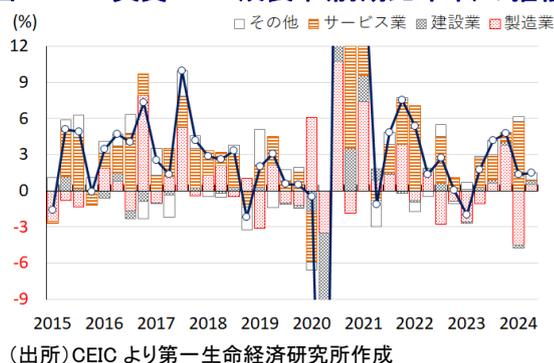
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/9(火)	(台湾)6月輸出(前年比)	+23.5%	+11.5%	+3.5%
	6月輸入(前年比)	+33.9%	+15.0%	+0.6%
7/10(水)	(韓国)6月失業率(季調済)	2.8%	--	2.8%
	(フィリピン)5月輸出(前年比)	▲3.1%	--	+27.9%
	5月輸入(前年比)	▲0.0%	--	+13.0%
	(中国)6月消費者物価(前年比)	+0.2%	+0.4%	+0.3%
	6月生産者物価(前年比)	▲0.8%	▲0.8%	▲1.4%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	5.50%	5.50%	5.50%
7/11(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%
7/12(金)	(シンガポール)4-6月実質 GDP(前年比・速報値)	+2.9%	+2.7%	+3.0%
	(中国)6月輸出(前年比)	+8.6%	+8.0%	+7.6%
	6月輸入(前年比)	▲2.3%	+2.8%	+1.8%
	(マレーシア)5月鉱工業生産(前年比)	+2.4%	+4.2%	+6.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [シンガポール]～建設部門や製造業の生産の堅調さを反映して、前半の成長率は目標近傍となる展開～

12日に発表された4-6月の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比+2.9%となり、前期(同+3.0%)からわずかに伸びが鈍化するも、比較的堅調な推移をみせている。前期比年率ベースでは+1.45%と前期(同+1.36%)からわずかに拡大ペースが加速しているほか、5四半期連続のプラス成長で推移するなど足下の景気は底入れの動きを強めている。分野ごとの生産の動きをみると、製造業の生産が2四半期ぶりの拡大に転じているほか、建設業の生産も2四半期ぶりの拡大に転じるとともに大きく上振れするなど足下の景気底入れの動きをけん引しているほか、サービス業についてはIT関連や金融関連などで堅調な動きがみられるほか、小売・卸売関連にも底堅い動きがみられる一方、観光関連や不動産関連の下振れの動きがサービス業の生産の足かせとなる動きがみられる。なお、同国政府(貿易産業省)は今年の経済成長率見通しを+1.0~3.0%としており、5月時点においてもこの見通しを据え置いているが、前半についてはこの上限近傍にあることが確認されている。

図1 SG 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



**[韓国]～失業率は4ヶ月連続の横這いで推移も、若年層を中心に労働市場からの退出の動きが確認される～**

10日に発表された6月の失業率(季調済)は2.8%となり、前月(2.8%)から4ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前月比▲2.1万人と前月(同+0.7万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。年代別でも、30代や40代などで拡大する動きがみられる一方、10代や20代で減少しているほか、50代でも減少傾向が強まるなど年代ごとに跛行色が生じている様子が見え始める。一方の雇用者数は前月比+0.2万人と前月(同▲11.8万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど回復力の乏しい状況が続いている。年代別でも、失業者数が減少している10代や20代、50代で減少する動きがみられるほか、これらの年代では労働力人口も減少するなど労働市場から退出する動きが確認されており、雇用を取り巻く環境の厳しさを示唆する動きが確認できる。さらに、雇用形態別では非正規雇用を中心に調整の動きが強まる動きが確認されており、こうした点でも雇用を取り巻く環境が厳しさを増している様子が見え始める。事実、労働力人口は前月比▲0.2万人と前月(同▲1.1万人)から2ヶ月連続で減少するなど労働市場からの退出の動きが強まっていることを反映して、労働参加率は64.4%と前月(64.5%)から▲0.1pt低下している。

図2 KR 雇用環境の推移



**[台湾]～輸出は電子部品関連を中心に底打ちに転じる一方、輸入は総じて底入れの動きを強める展開～**

9日に発表された6月の輸出額は前年同月比+23.5%となり、前月(同+3.5%)から伸びが加速している。前月比も+8.5%と前月(同▲4.2%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じており、頭打ちの流れが大きく変化している様子が見え始める。財別では、化学製品や

鉱物資源関連などの輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の輸出の堅調さが輸出全体を押し上げる動きがみられる。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けは頭打ちしている一方、米国向けや日本向け、欧州向けなど先進国向けのみならず、ASEANなどアジア新興国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額も前年同月比+33.9%となり、前月（同+0.6%）から伸びが加速している。前月比も+17.2%と前月（同▲3.8%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。輸出の堅調さを反映して素材や部材関連の輸入が押し上げられる動きがみられるほか、機械製品関連の輸入も堅調な動きをみせるなど総じて輸入は堅調に推移している。結果、貿易収支は+46.82億ドルと前月（+60.48億ドル）から黒字幅が縮小している。

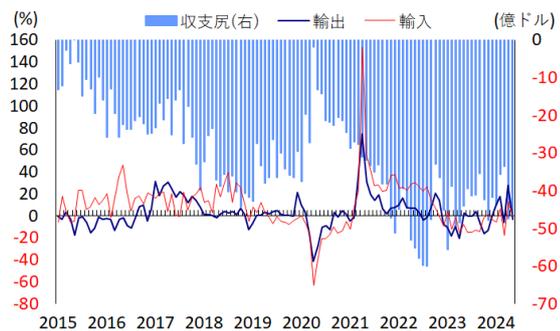
図3 TW 貿易動向の推移



#### [フィリピン]～輸出入ともに頭打ちの動きが確認されるも、半導体関連の輸出については堅調な動きが続く～

10日に発表された5月の輸出額は前年同月比▲3.1%となり、前月（同+27.9%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの状況が続いている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出に堅調さがうかがえるものの、果物をはじめとする食料品や鉱物資源関連などの輸出鈍化の動きが輸出全体の重石となっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けや米国向けのほか、日本向けに堅調な動きがみられるものの、ASEANなどアジア新興国向けや欧州向けなどの鈍化が輸出全体の足を引っ張っている。一方の輸入額は前年同月比▲0.0%となり、前月（同+13.0%）からわずかながら前年を下回る伸びに転じている。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、半導体をはじめとする電子部品関連の輸入が下振れしているほか、鉱物資源関連や機械製品関連など幅広い分野で輸入が下振れしている。結果、貿易収支は▲46.01億ドルと前月（▲47.29億ドル）から赤字幅が縮小している。

図4 PH 貿易動向の推移

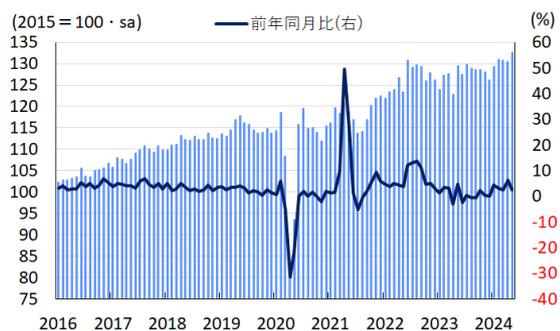


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～鉱業部門の生産は大幅に調整も、製造業や発電量での生産拡大が全体を押し上げる展開～

12日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+2.4%となり、前月(同+6.1%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+1.70%と前月(同▲0.26%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底入れの動きを強めている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調な推移をみせている。分野別では、国際商品市況の調整の動きが重石となる形で鉱業部門の生産は大きく下振れしている一方、製造業関連の生産は拡大に転じるとともに底入れの動きを強めるなど堅調さがうかがえるほか、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も3ヶ月ぶりの拡大に転じており、足下の生産活動の底堅さがうかがえる。

図5 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。